

# 子どものスポーツ活動 への対応と指導は



一山 稔 議員

などの反面、長時間の練習や発達段階を考慮しない活動、けがや事故など、問題が起こらないよう指導者の

スポーツにけがは付きものだが、小学生のスポーツ活動に対する指導、中学校クラブ活動への心構え、負傷や傷害が起きた時の対応や技術面はもちろん、負傷後の治療等に対する指導はどのようにしているのか。小学生クラブチームの責任者や保護者とは連携や連絡は取っているのか、今後のスポーツ活動への対応と指導についての考えは。

## 答 峯野教育長

子ども達が技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを見出し、学校生活に豊かさをもたらす



中学校の部活動

資質向上や相談しやすいクラブ運営が大切で、関係組織と連携協力し安全で楽しく活動できるよう働きかけたい。負傷や傷害には未然防止を図っているが、発生した場合は緊急対応マニュアルに基づき対応する。

アルに基つき対応する。スポーツ少年団総会時に情報交換や研修で連携を図っている。学校やスポーツ少年団と連携し安心してスポーツ活動に親しめる環境の整備に努めたい。

## 脳脊髄液減少症への

## 理解普及を

### 質 一山議員

脳脊髄液減少症は、学校の授業や部活動での転倒や転落事故、また、交通事故で頭部を含む全身強打や出産でも発症し、激しい頭痛やめまい、倦怠感、記憶障害等の病状に悩まされるもので、症状が外見から分かりにくく医療現場でも理解が進まず後遺症があるにもかかわらず怠慢と批判を受けたり、不登校の原因ともなっている。

同症に該当した人はいるのか、理解促進のため教職員への講習会や研修会などで周知徹底をすべきだが対

応できているのか。地域住民にも広報や啓発冊子などで理解、普及を深めてもらいたい。

### 答 福井町長

現時点で病気の対応はできていないが「ブラッドパッチ療法」が4月から保健適用されることで朗報かと思う。病気の症状や治療法を、機会を捉え情報提供や普及啓発をしていく。

また、介護現場でも十分な理解が必要で、介護に関わる関係機関とも協議しながら、健康で有意義な生活が送れるよう努めたい。

### 答 久米教育次長

学校での記録はないと聞いている。後遺症等により学校生活に支障が出た場合、児童生徒が怠慢であるかのような批判を受けたり、周囲から理解が得られなかったりという事例もある。保育園児も含め、小中一貫教育を推進する中で、特別支援連携協議会を設置し、十分な個別対応ができる支援連携に取り組んでいる。関係者に広く周知し、認識を再度深めることで早期対応にもつながり、機会を捉え周知していきたい。

### 答 百々健康生活課長

認識は高くない、十分な現状把握はできていない。学校以外の分野での同疾患の認知、患者は本町では該当がないが地域住民にも広報や啓発冊子などで理解普及を深めていきたい。病気の沿革や症状、病院の紹介等の周知が重要で専門的知識を有する関係機関、学校とも連携し、あらゆる機会を捉え啓発に努めたい。